会　　議　　録

会　　議　　名	令和２年度第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事　　務　　局	市民部　コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開　催　日　時	令和３年２月２日（火）１６時００分～１６時５０分		
開　催　場　所	旧中村研一邸旧宅・茶室「花侵庵」		
出　席　委　員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 原田隆司委員 坂井文枝委員 浜田真二委員 鈴木遵矢委員		
欠　席　委　員	なし		
事　務　局　員	コミュニティ文化課文化推進係　　吉川、岡本 同　　はけの森美術館学芸員　中村		
傍　聴　の　可　否	可		
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		傍聴者数	０人
会　議　次　第	１　茶室「花侵庵」の見学 ２　事業実施報告等 ３　意見交換等 ４　その他		
会　議　結　果	別紙のとおり		
会　議　要　旨	別紙のとおり		
提　出　資　料	開催した展覧会等及び今後の予定		

令和２年度　第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会

令和３年２月２日（火）

【鉄矢会長】　　令和２年度第３回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会します。

議題に入る前に、まず議事について事務局から報告をお願いします。

【鈴木委員（館長）】　　学芸員の桑野が去年の２年の１０月３１日付けで急に退職することになりまして、退職をしております。現状では中村学芸員１人という体制で美術館の運営等をやっていただいているところなんですが、来年度４月に、体制として新たに２名配置できるように今準備をしているところでございます。

報告は以上です。

【鉄矢会長】　　では、配付資料の確認を事務局からお願いします。

【事務局】　　資料の説明をさせていただきます。次第が１枚、あと資料１が、展覧会の報告が１枚、スケジュール表を資料２－１、最後に中村研一特別公開について、報告の資料が１枚です。資料が不足している方はいらっしゃらないでしょうか。

【鉄矢会長】　　あと、前回の会議録があります。

まずは、茶室（花侵庵）の見学は終了しましたので、次第の２、事業実施報告等について事務局から説明をお願いします。

【中村学芸員】　　では、開催した展覧会についての報告は私のほうからさせていただきます。

開催した展覧会といたしまして、資料１にございますように、これは１０月３１日から１２月６日にかけ「ふたたびの北京官話―中村研一が描く人体のフォルム―」と題した展示を行いました。これは所蔵作品展なんですけれども、３月に一度、北京官話という展示を予定していたんですが、緊急事態宣言を受けまして、最終的に開催できず中止になってしまったということがありましたので、この展示をそのままやり直して秋に持ってくるということではなくて、内容をさらに拡充する形で秋に行ったものです。展示作品としましても、春の段階では１階を北京官話という展示にして、２階は猫に関する展示という形で、２階は別のテーマを予定していたんですけれども、これを１階、２階合わせて北京官話と中村研一が描く人体のフォルムというテーマで改めて調整し直しまして、展示作品を展示するにおきまして、秋にできたということになります。

秋の展示でそういった形で実現はできたんですけれども、ただ、やはりコロナウイルスの感染拡大防止措置ということに関しましては、夏以降、どういうふうにやっていくべきかというところは再度検討を行いまして、ここにございますように、休館日が月曜日、火曜日という形になったりですとか、それから開館時間が１１時から午後４時までという形で、通常だったら朝は１０時開館で閉館が午後５時という形だったんですけれども、それぞれを少し短縮する形にいたしました。

その上で、受付の部分に、例えばこういったアクリルを設置したり、館内の各所にアルコールの手指消毒剤を置いたりですとか、ソーシャルディスタンスの確保ということを来館者の皆様に周知するといったようなことで、いろいろな措置を行いました。

併せて、入館者の方には、入館の際に受付票という形でお名前と連絡先を書いていただけるようにということで協力をお願いしました。ここに関しても大きなトラブルはなく、おおむね皆様に御協力をいただいて、受付票などに書いていただくことができました。

そういった形で連絡先を２週間程度、これは潜伏期間のことを考えて２週間程度保管して、問題がないものからそのまま破棄するという形で、個人情報の管理についても配慮した形で管理していたんですけれども、幸い、会期中に、例えば展示の中でクラスターが発生するといったようなことはなく、会期は終了いたしました。

最終的に、こちらにございますように、こういった形で、少し展示としては制限があって、各お客様にも受付票の記入などという手間をお願いするような感じではあったんですけれども、最終入館者としましては１，４７８人ということで、まずまずの数となりまして、展示の開くのを待っているという方が結構いらっしゃいましたので、そういった方たちにとっては、待ちかねていた展示というような形になったかと思います。

今後開催予定の展覧会について御報告させていただきますけれども、この展示、上の「ふたたびの北京官話」が１２月６日に終了いたしまして、今、美術館の展示室のほうからは一般の方々の対応になっております。コロナの緊急事態宣言が再度出されたということもありまして、今は休館しているんですけれども、３月の下旬をめどに次の展示ができないかということで今準備を進めております。

次の所蔵作品展で、今ここに、仮題ではありますけれども、次のテーマとしましては、「画家の仕事と手遊び」というテーマで、これは画家としての仕事の絵と、それから私人としての中村研一が自分の楽しみとして作った生活物というのを併せて展示することで、中村研一がこのはけの中で過ごした日々を見ていくという、そういうテーマで考えていま

す。会期としましては３月２７日から５月９日ということで考えていますけれども、やはりこの期間、緊急事態宣言が明けているということを期待してこの期間に設定しておりますが、ただ、やはりコロナ対策は今後も必要であろうということで、現状では、今のところ、こちらに記載したような形でコロナ対策を考えております。

先ほど館長のほうからもありましたけれども、この年度に係る意味では、私のほうから報告できるのは、この年度に入る３月３１日までというところになってしまうんですけれども、新年度の５月９日までということで今のところ想定して準備をしております。

以上です。

【鉄矢会長】　ありがとうございます。何か質問、御意見等ありましたらお願いします。

【原田委員】　１の「ふたたびの北京官話」、私は土曜日に見に行ったんですが、結構にぎわっていまして、館内、何組もお客さん。ちょっと話しているのを聞いてみたら、結構、市外から訪れた方が多いようで、終わってからも、庭を全部見て、いいところがあるのねというような話をしながら帰っていく様子を見ました。そういう意味で、たしか住所と名前を書いていたと思うんですけども、大人の一般有料の中で市外の方の割合は分かりますでしょうか。

【中村学芸員】　コロナのほうで書いた受付票に関しては、これはコロナに万が一感染があったときの連絡用としてとっているものということで、ほかのことに使いませんという条件で記入をしていただいていましたので、その中から市外かどうかということをデータとしては取ることはできなかったんです。ただ、お客様のお話を聞いていますと、やはり市外から来たとか、それから春先に来たかったんだけれども、電話してみたらやっぱり休館しているということだったので、秋に開いていますかということを確認してからやって来たという方が結構いらっしゃいまして、お電話で聞いてから来てくださる方が多かった印象です。

例えば、結構、中央線で来ようと思っているということでお問合わせしてくださる方が多かったので、つまり市外からいらしているということですので、そういう意味では、待っていた方が多かったなという印象ですね。

【原田委員】　ありがとうございました。

【鉄矢会長】　そのほか、何か質問、御意見等ありますか。

では、次に、次第３の意見交換等です。何か質問、意見等ありましたらお願いします。

【中村学芸員】　ごめんなさい。ちょっともう１個、資料３の説明をさせていただいて

よろしいですか。

【鉄矢会長】　　資料３の説明をお願いします。

【事務局】　　先ほど花侵庵を見学していただきまして、そこでも少しお話しをしましたが、本来であれば修復が３月に終わっていますので、秋のタイミングで先ほども少しお話ししました中学生の茶会をやるとか、講師を呼んで講演会をやるとか、華々しく修復工事が終わったというイベントをやりたかったんですけれども、コロナの状況がはっきりしないということを含めまして、やはり１回は皆さんに見てもらおうということで、１１月の文化財ウイークに合わせまして特別公開ということで、生涯学習課の文化財係と共催で公開をしました。

今、入っていただいて分かるかと思いますけれども、大変中が狭いですので、大人数でぞろぞろ入れるような建物ではないので、密にならないということと、建物を傷めないために、３回に分けまして、１回１０名ずつ入っていただくということで、往復はがきのみで募集させていただきました。

一番下の７番に書いてあるんですけれども、お申し込みの件数は７５件で、人数はそこに書いてあるとおりに全体で１１５名だったんですけれども、かなりの倍率になってしまいましたが、抽選をしまして、１回１０名ずつ入っていただくということで、解説を、株式会社佐藤秀に依頼してこちらの修復を先頭に立ってやっていただきました、小林課長にお願いしまして、どのような修復工事をしたのかということなどを説明していただきました。そのとき、さっき柱の根継ぎと言ったんですけれども、根継ぎの模型を持って来てくださいまして、こうやって根継ぎするんだよというような、そこの解説もしてもらいまして、大変好評でしたので、ぜひ来年度について、今年の１１月頃については、また講演会をやったりなどできるといいなというふうに思っています。

館長ともお話しをしたんですけれども、中へ入れないとしても、何かのタイミングで公開して、外からも見れるような形の機会を何回かつくって、先ほど鉄矢先生が見学会とおっしゃっていましたけど、見学会ができるようなことも考えていこうかなというふうに思っております。

以上です。

【鉄矢会長】　　ありがとうございます。

では、次第３の意見交換等にします。何かございますか。

最初の緊急事態宣言が出たときに不要不急と言われて、美術、芸術というものは不要不

急のように思われて「一瞬止まるんですけども、その後、さっき学芸員の中村さんから話があったように、待っていたという、実は呼吸をするように人間が欲しているものなんだろうなと思っています。なので、この第２波のときの緊急事態宣言以降のところでは、探り探り開けてやっていくしかないのかなと私も思いました。最近は、授業のほうも対面で行ったりするようになっていますし、不要不急でないことであるのを再確認しながらやっています。

【坂井委員】　特別公開についてお尋ねしてもよろしいですか。この申し込みの媒体は、何で募集していたんですか。

【事務局】　ホームページと市報で募集しました。

【坂井委員】　先ほど吉川さんおっしゃっていたように、私もこれ、結構多い申し込みだと。それはよかったですねという感じなんですけど、お茶をなさっている方とか、どういう方が多いですか。

【事務局】　来ている方でお茶をなさっている方はいらっしゃいましたけれども、ごく普通の一般の方でした。一般の方と言ったらおかしいですけど。開けてみたら、お着物を着て、明らかにお茶をやっていらっしゃるような方が２人ぐらいいらっしゃいましたけど、ここがいつも閉まっているから中が見たかったという方が一番多かったです。もったいないなと思っていて、あのまま朽ち果てちゃうのかしらと思ったんですけどと。

【坂井委員】　そう思いますよね。

【事務局】　でも、きれいになってよかったですとおっしゃっていただいたので。

【坂井委員】　私も多いと思いました。

【事務局】　そうなんです。結構、市外の方も、やっぱり市内の方が多かったんですけれども。あと、生涯学習課のほうが東京都の文化財ウイークのホームページにも載せていたんです、特別公開として。ですので、千葉とか神奈川とかからも申し込みの方がいらっしゃったんですけども、抽選に外れてしまいまして。

【鈴木委員（館長）】　建築のマニアの方みたいなのもいらしていたみたいで、佐藤秀三の作品、あまり中に入って見れるという機会がない中で、こういう公開があったからぜひ見たかったというのは、私も現場で対応していたんですけども、そういうお話しをされる方もいらっしゃいました。

【事務局】　ネットでお申し込みもしてもらうと、もっとすごいことになっちゃったと思うんですけども、今回は葉書での応募とさせていただきました。

【坂井委員】　　分かりました。

【山村委員】　　すいません、質問なんですけど、それと合わせて庭の整備はどうなっていますか。

【事務局】　　庭の整備のほうは、今丁度職人さんが入っていますけれども、今やっていただいているフジ棚と茶室のところのバラ棚の補修については東京都から補助金をもらっていまして、去年もらいました観光振興の補助金でやってもらっています。高木の剪定は台風などで危ないので、今年の予算でかなり切ってもらったんですけれども、来年度の予算については、コロナの対応にお金がかかるため、高木剪定の予算は確保できませんでした。現状はフジ棚がほぼ倒れそうな状態だったんです。それをきれいにしていただきました。先日、造園業者から言われたんですけど、建物のすぐ横にある木が育ち過ぎてしまって、いつの日か伐採しないと建物がひっくり返るよと言われました。根が張ってしまって、確かにすごいんですよ。自然を残さなきゃいけないけども、建物が壊れちゃうのはちょっと困っちゃうなというところで、難しいと思いました。なかなか思ったようには進んではおりません。

【山村委員】　　湧き水のほうは、あまり水が湧いていないと聞いたんだけど。

【事務局】　　湧き水は、さっき中村も言っていましたけど、雨の状況、雨がいっぱい降れば湧くんですけども、雨が降らないと、結構池がかれていることもあるので。

【山村委員】　　下から湧き出る地下水というよりは、水があふれたと。

【事務局】　　そうですね。湧いているんですけどね。ふつふつとは湧いているのですが。

【山村委員】　　降った雨がすぐ出てくるみたいな仕組みになるのですね。

【事務局】　　沼地のところは井戸水をモーターでくみ上げているので。こっちは、水は出てないです。水路の奥のところが、水が湧いているので。

【山村委員】　　その辺、難しいですね、整備するのには。

【事務局】　　本当に難しいです。

【山村委員】　　確かに花も上のほうだけ咲いていて、この辺まで咲いてないですね。

【事務局】　　ちょっと鬱蒼としてきてしまって、光が入ってこないというところがあるので、下のほうの草木が、日光がうまく当たらずに育ちが悪くなったりとかしてきているので。木も年取ってくると、自分で勝手に枝を落としていくんですよね。それがかなり危険なので。展覧会中も玄関の前に枝が落ちてきて、誰も当たらなくてよかったんですけど、結構な太さの枝が落ちてきまして、その辺の危険なんかも財政のほうには話をしているん

ですけれども、コロナの影響で財政が厳しくなっています。

【鉄矢会長】　　それでは、最後に４番のその他について、ございますか。

運営協議会も予定どおり開催しながら、短めにして今後も進めていきたいと思います。御協力をよろしくお願いします。

【鈴木委員（館長）】　　１つ、よろしいですか。情報提供といいますか。今、ちょうどコミュニティ文化課のほうで第２次芸術文化振興計画のパブリックコメントを行っています。それが今週の、吉川さん、金曜日なんですよね。

【事務局】　　金曜日までなんです。

【鈴木委員（館長）】　　までになっておりますので、ちょっと御覧になっていただいて、何の事業を細かく、いついつまでにこうしますよというような計画ではなくて、もうちょっとふわっとしたという言い方が適当かどうかは分からないですけど、理念とか概念とか、そういうところで進めていくというような、市の計画としてみると、ちょっと不思議な計画に見えるかもしれませんが、山村先生にも入っていただいて、今までいろいろリモートでやったりとか、まとめてきましたので、御覧になって御意見があれば寄せていただければなと思っております。

【事務局】　　市民の方と市内の事業者の方には資料を今日持ってきましたので、よろしければ鉄矢先生、坂井委員、原田委員にお渡しして、見ていただければと思います。意見があって、今までの事業が分からないというような意見もあって、もしお荷物にならないようでしたらば、今までの事業をある程度まとめた冊子がございますので、お持ちいただければと思いますので、後ほど帰りのときに渡します。

【山村委員】　　今の計画が非常に大所高所に立っていて、市民を尊重する芸術文化振興計画というものの意味は何かとか、その背景は何かとか、生涯学習は歴史的な経過があるとか、非常に立派な計画なんですけど、確かに財政的な具体性に乏しい。その辺、中には、ちょっと意見をさせていただいたんですけど、もうちょっと具体的に政策をまとめた提案が足りなかった。市民、NPO、指定管理者、市当局では、やっぱり担い手が違うということだと思います。ソフトを充実させるとともに推進体制を整備してくださいというようなことは申し上げました。パブコメでもまたそういう意見がすごく反映されると思うので、ぜひよろしくお願いします。

【鉄矢会長】　　そのほかございますか。

【鈴木委員（館長）】　　あともう１点、すみません。直接この運営協議会とは関係ない話

なんですが、芸術文化ということで、今年度、実はアーティスト支援というのをやっておりまして、東京都もやっていた動画を作っていただいて、それに対して謝礼を支払うという、今日参加している岡本が中心でほぼ行っているんですけども、今ちょうど動画も市のホームページからリンクを飛ばしてユーチューブで見れるようになっていますので、ぜひ機会があれば見ていただけるとありがたいと思います。

【山村委員】　　それはウェブ上で見られるものというものですか。

【事務局】　　東京都の事業と似たような感じで、小金井市版で事業を運営していて、市内の芸術家の作品を小金井市のホームページ上に載せております。

【山村委員】　　それは幾らかお金を払っていますか。

【事務局】　　お一人当たり５万円の謝礼で、事業を行っています。第１弾は募集人数を１００人として事業を実施しました。今、第２弾がスタートしておりまして、６０人の定員で事業を実施しているところです。

【鈴木委員（館長）】　　結構著名な方の応募があったりとか、バラエティに富んでいて、見ていただけると、面白いものもありますので、ぜひ御覧いただければと思います。

【鉄矢会長】　　その他、ほかにありますか。

【坂井委員】　　ちょっと後先になっちゃうんですけど、次回の展覧会の質問を中村さんによろしいですか。先ほど、手遊びというふうにお読みになられた、そうですよね。３月に拝見すればいい話なんですけど、本業としての仕事と中村画伯は、手遊び的にはどんな、水彩をやったとか聞いてみたいです。

【中村学芸員】　　大きな柱としては、陶芸がやっぱり私の制作という行事の中で非常に重要であると思っているんですね。中村研一、若い頃から非常に焼き物が好きだったんですけれども、実際に自分で焼き物を作り出すというのは、こちらに越してきてからのことで、これはどっちかというと、自分はそれまで集めていた大事なコレクションは大火にして燃えてしまってなくなっちゃったというので、だったら自分で作ろうということで焼き物を作り出すんですけれども、ただ、これについては、自分で１からやるというよりかは、もう代々の窯元とか、そういうところに訪ねていって、作り方を教わって作っているんですね。多分、本人としては、そういう意味では、自分がやっているのはプロの仕事ではないというふうに見なしている。だから、作ったものに関しては、自分で結構気に入ったものに関しては、わりと自慢げにコラムで自慢してみたりとか、持ってきて、いいだろうと言ったりとかはするんですけれども、それを展示に出したりだとか、それを売ってお金に

換えようだとかという発想はほとんどなかった。どちらかというと、そういうふうに自分で作って自分で自分の時間を充足させて、満足して終わるというものであった。だけれども、すごく大事にしていたという意味では、すごく陶芸というのは、私の中村研一というのを象徴するものだと思っていますし、それを改めて見ていくと、人間としての中村研一が結構立体的に分かるかなというふうに思っています。

【坂井委員】　　なるほど。陶芸が主に手遊びの部分での展示になってくると。

【中村学芸員】　　そうですね。あとは、藤田嗣治がちょっと遊びに来たときに、ふざけて２人で、自分のことを猫に擬人化して書いてみるというのもありますし。そういう意味では、絵の中でもちょっと、多分、そういう仕事の絵じゃない部分というのもあると思うんですけど、ここもちょっと、少し、メインの部分としてというよりかは、そういう広がりを紹介していけると思うんですけれども、ただ１つの柱として陶芸を出したいなと思っております。

【山村委員】　　ちょっと関連してお聞きしたいんですが、中村研一の場合、生計はどのように立てていましたか。

【中村学芸員】　　ここは、おそらく、率直に言うと、株を持っていまして、株の配当が結構出ていたみたいなんですね。おそらく中村研一は、そのお父さんの分をある程度引き継いでいたようでして、そういった意味では、不労所得がある程度確保されていて、そんなに絵をがんがん売らなくても生きていけるという自信はどうもあったようですね。

【山村委員】　本業として絵を売るとか、あくせく何か稼ぐ必要がなかった。

【中村学芸員】　　そういう意味では、すごくそういう経済的な部分の判断ができるタイプの方だったと思います。ふわふわしていて、そういう部分がすごくザルというタイプの画家ではなくて、現実的な社会というのがどうなっているのかというのを分かった上で、自分の好きなことをするということができる人だったんだろうと。

【鉄矢会長】　　館長、さっき新年度から学芸員を２人とおっしゃいましたか。

【鈴木委員（館長）】　　そうです。中村が実は今回、更新するタイミングだったんですけども、子育てとか、様々な理由で。

【鉄矢会長】　　さっき３人になるわけないなと思って、今、話を聞きながら。

【鈴木委員（館長）】　　実は新しい方を２人採用する予定なんです。採用試験を行いまして。新しい２人が突然、４月１日から入ってきてもなかなか厳しいなというところがありますので、ここは財政のほうといろいろ交渉しまして、中村さんにスポット的に入ってい

ただけるような形で予算を確保しています。なので、大丈夫です。

【鉄矢会長】　　ここで中村研一を詳しく、いろいろなことを、やりたいもの、見せたいものが出てくるところの学芸員なので。

【原田委員】　　北京官話の展覧会のときも、表がポスターで裏が研一の解説という配布物がありました。あれは読み応えがあるし、うちに持って帰って飾れるし、いい配布物だなと。あれだけで入場料のもとが取れたという。

【中村学芸員】　　まさに、あれは、ぜひ帰ったときに飾ってほしいなと思って作ったものでして、本当は３月に配ろうと思って作ったら、３月の展示に配れずに全部残ってしまったので、秋にやっと配れたと。

【原田委員】　　解説も分かりやすくて、読み応えがありました。

【鉄矢会長】　　ありがとうございました。

　あと、美術館を待っている人たちがいっぱいいたというふうに聞いていて、みんな、集まれという広報はできないですけど、ディスカバー・ジャパンじゃないけど、ディスカバー・小金井じゃないけど、住んでいる人は住んでいる人なりに工夫して、地域資産として、行った中で美術館があったみたいな、何かそういうチャンスでもあるのかなと思って。自分の地域の文化振興を支えるスタートができるんじゃないかと思っています。だから、そんなふうなことも、さっき美術館を待っている人がいるという、それだけの底力があるんだからと思います。意見です。

【事務局】　　今、広報動画を作っていまして、こんな状態なので、美術館が閉まっていても、この緑地と美術館と文化財の建物が見れるような広報動画を作っています。市内の地域と映像のサトウさんというカメラマンさんに撮ってもらって、今ほぼほぼできているんですけど、そこのフジ棚がぼろぼろだったので、今、フジ棚の修理を待って撮影して、最終的に公開できるようにしますので、ぜひ見てください。

【鉄矢会長】　　ぜひそういうとき学校を。中学生ぐらいだと動画編集ができるので、その方に、中学生に指導してもらって、２週間ごとぐらいに新しい中学校が新しい動画を上げるとかできるといいですね。同じ動画が上がっていても更新されないと実は見ないんですよね。中学生が上げたとなると、まず親が見る、友達が見るというふうになってやれるので、戦略的にはいい気がします。作家の方にも、もちろんお金回しながら。いい意味の広報部隊としては中学生による動画づくり。動画編集がこんなに簡単になってくるとは思っていませんでしたが。今、図工の授業でも動画をやらせるんです。

【山村委員】　　小学校、中学生、うまいですよ。

【鉄矢会長】　　見ているユーチューブの数が違うからですかね。

【山村委員】　　東京都美術館でも、ビデオ制作入門というワークショップをやったことがあり、小学生、中学生１０人ぐらいが集まって、結構楽しく編集も、インタビューも、ナレーションもやっていました。

【事務局】　　中野の中学校が来てますけどね、この間。

【鉄矢会長】　　掛川ひかりのオブジェ展というのをやっていて、そこからうちの研究室が発注受けて、動画を作ることをやりました。学生を連れて行って、学生と動画ネタを取りまくって、誰が編集やるんだろうと思ったら、全員、自分たちで編集して。予定では３本だったのが６本もできちゃって。みんなそれぞれ工夫しているので、それが１週間ごとにアップされるという面白いことができました。

【鈴木委員（館長）】　　どこの自治体さんですか。

【鉄矢会長】　　掛川市です。掛川市も、動画をサイトに上げると、芸術活動をやっていた市民団体をサポートするというのをやったみたいです。

【山村委員】　　動画を作るのには、撮影して、音を撮って、それをまた編集するときに、組み合わせる。どのタイミングで音を入れようとか、どこが効果的に映ったとかという感覚が鋭い。今の子供たちとかは、そういう作業が非常にうまい。

【鉄矢会長】　　あと１本だけ作るとなると、皆が集中して、文字が違うとか、直せとかいう文句言って、作る側も発注側も両方が疲れてくるんですよね。でも、ユーチューブみたいにどんどん流れて、どんどん新しいのが出てくると、多少の間違えも流してくれる。またその間違いは直してというような感じで直すこともできる。でも、学生はそれで悔しいようですが、そうやってみんなが元気になる方向にしていくというのは、１つのつくり上げ方だと思います。閉会式は、さすがに緊急事態宣言中だから行けなかったんですね。だから、閉会式は、今度はバーチャル空間に写真で作品並べて、そこにアバターで出席するという形をとりました。それをまた撮影して、録画して、それでまた動画を作る。いろんなことができる時代を目の前にしているのを、やってみるとできちゃう学生を見ると、びっくりしますね。

　では、事務局から会議録の調整について説明をお願いします。

【事務局】　　前回の会議録ですが、配付してありますが、およそ１か月後、３月２日ぐらいまでに私のほうまで御提出をお願いいたします。

以上です。

【鉄矢会長】　　運営協議会、次回の日程、御意見ございますでしょうか。

【事務局】　　今年度は本日で終わりです。次回は４月下旬の開催ということでいかでしょうか。

【鉄矢会長】　　４月の終わりぐらいですね。

【事務局】　　そうですね。

【坂井委員】　　今度も６時半でよろしいんですか。

【鉄矢会長】　　はい。４月２７日でいかがでしょうか。

【坂井委員】　　大丈夫です。

【事務局】　　開催場所は美術館の２階となります。

【鉄矢会長】　　それでは次回は４月２７日の６時半からということでお願いします。

ほかにありますでしょうか。

ないようでしたら、以上ではけの森美術館運営協議会を終了いたします。御協力ありがとうございました。

―― 了 ――